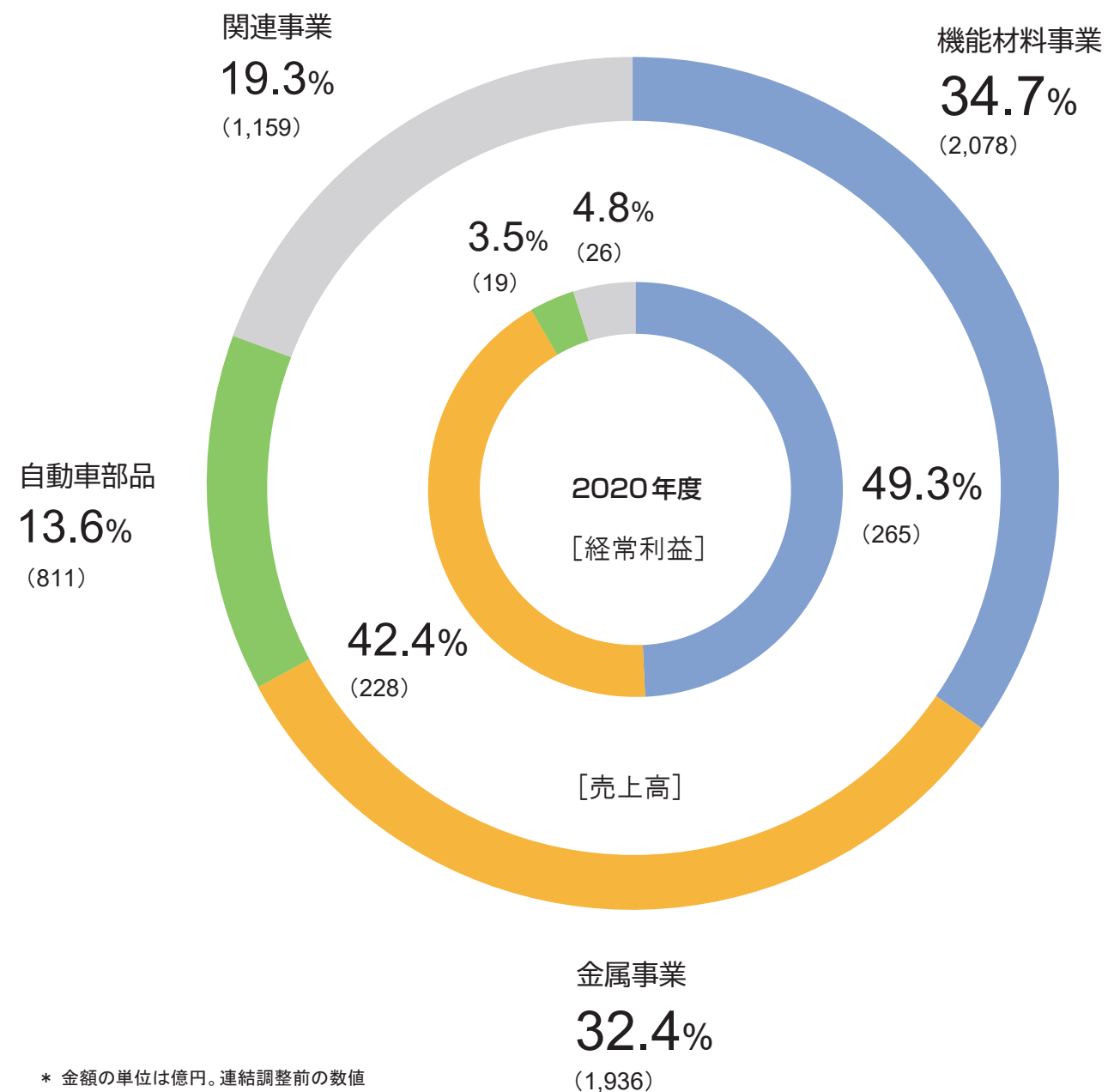


三井金属グループの事業

2020年度業績 事業セグメント別内訳と概況



● 機能材料事業 Engineered materials

[銅箔] キャリア付極薄銅箔 MicroThin™は、HDI(高密度実装基板)向けにおいて韓国および中国のスマートフォンへの新規採用が計画より遅れていますが、半導体/パッケージ基板向けの需要が堅調であったことから販売量は増加しました。5G関連製品である付加価値の高いハイエンド銅箔は計画を上回る速度で需要が伸びています。

[触媒] 二輪車用触媒は、インドにおける新たな排ガス規制、BS6規制の施行にともなう増販を見込んでいましたが、コロナ感染症拡大の影響もあり前年度並みの水準となりました。四輪車用もコロナ禍による市況減速の影響はあったものの、日本およびインドの新規受注獲得によって概ね当初の計画通りに推移しました。

[機能性粉体] 電子材料用銅粉はスマートフォン向けの用途での需要、高純度酸化タンタルは中国市場向けの需要がそれぞれ堅調に推移し販売量は前年度と比較し増加しました。

[薄膜材料] 主力であるディスプレイ用途のITOターゲットは、国内および中国市場向けの需要が低調となり、販売数量は減少しました。同製品はシェア拡大路線から収益重視に向け、事業改善を進めています。

機能材料事業全体では、売上高は前年度に比べ、399億円(23.8%)増加の2,078億円となりました。主要製品の増販に加え、触媒の原材料である貴金属価格が上昇したこと等から、経常利益は前年度に比べて131億円(98.0%)増加の265億円となりました。

● 金属事業 Metals

国内の亜鉛メッキ鋼板向けの亜鉛地金は、コロナ禍の影響にともない自動車向けおよび建材向けとも需要が低調であったことから販売量は減少しました。鉛についても、国内の鉛蓄電池向け需要は自動車向け、産業用向けともに低調であったことから販売量は減少しました。亜鉛および鉛のLME(ロンドン金属取引所)価格は上昇基調で推移しましたが、通期のLME価格および国内平均価格は前年度並みの水準となりましたことから、売上高は減少しています。一方で、金・銀は国際相場が上昇したこと等から売上高は前年度に比べて増加しました。これらの結果と2020年度より銅製錬の事業会社である日比製錬株式会社および日比共同製錬株式会社を連結子会社としたことにより、金属事業の売上高は、前年度に比べて325億円(20.1%)増加の1,936億円、経常損益は金属価格の上昇にともなう在庫要因の好転等もあり、前年度の△15億円から243億円改善の228億円となりました。

● 自動車部品 Automotive parts & components

コロナ禍の影響によって世界的に自動車市場は減速しましたが、2020年度第2四半期以降の需要は回復基調で推移しています。主要製品である自動車用サイドアラッチの販売量は中国市場において増加したものの、その他地域の需要が低調であったことから前年度に比べて販売数量は減少しました。その結果、自動車部品事業の売上高は、前年度に比べて95億円(10.5%)減少の811億円となりました。経常利益は、主要製品の販売量が減少しながらも、グローバルに各拠点でのコスト競争力の強化に努めたことから、前年度に比べて14億円(308.0%)増加の19億円となりました。

● 関連事業 Affiliates coordination

関連事業の各製品とも総じて、コロナ禍の影響にともなう需要の低迷により販売は減少しましたが、産業用プラントエンジニアリング事業において国内グループ企業および海外向け大型工事事業の完成計上が増加したこと等から、当事業部門の売上高は前年度に比べて60億円(5.5%)増加し1,159億円となりました。経常利益は前年度に比べて11億円(77.4%)増加の26億円となりました。

* 2020年度に一部の子会社の属する事業部門を変更いたしました。ともない、2020年度のセグメント区分を変更いたしておりますが、増減比較の対象であります前2019年度のセグメント数値につきましては従来の組換え前の数値を基にしています。